

私は一学期に生徒会長に立候補し、二学期から生徒会長という立場を通して学んだことは主に二つあります。

一つ目は支えてくれる人がたくさんいることです。まず私が生徒会長に立候補するにあたって部活動の先輩が力になってくださいました。演説の原稿を確認してくださったり、話し方のアドバイスをしてくださったり、私のために自分の時間を削って沢山のことをしてくださいました。また、演説会当日には沢山の友達が応援の言葉をかけてくれました。沢山の人に応援してもらい、支えられ、生徒会長になることができたと思っています。また、生徒会長になった後も、前生徒会メンバーの方々がいろんな場面で気にかけて下さり、時には相談に乗ってくださいました。私がこれまで生徒会活動を頑張ってきたのはそうした優しい先輩や元気をくれる友達のおかげです。素晴らしい仲間や先輩に会えたこと、この学校に入学させてくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいです。

二つ目は、誰かのために行動することの難しさです。生徒会長になり、より学校全体を良くしようと積極的に活動するようになりました。しかし、思ったように企画が進まなかったり先生と意見が食い違ったり、たった一つのことをやるうとするだけでたくさん時間や労力が必要だということに気づかされました。成し遂げるには、やり切ろうという気持ちとどれだけ苦しい状況でもめげない強い精神力が大切だと学び、生徒会活動をしていく中でそういった精神力を鍛え、成長することができたと思っています。また、学校や生徒のために活動していけばいくほど、この学校を良くしたいという気持ちが大きくなり、大好きな学校のことを考える時間が増えました。この半年で学校の何かを変えられたかと振り返ると、まだまだできることは多いと思うので、これからも頑張っていきたいです。

この一年、私を支えてくださった沢山の人がいることに気づき感謝の気持ちが自然と生まれたのは、私自身、生徒会長として学校全体を支える立場となり、支えることの難しさに気づけたからだと思います。どんな小さなことでも、誰かのために行動するのは難しいことだと思います。それでも私の周りには私のためにいろんなことをしてくれる人がいます。私はとても恵まれていると気づかされました。これからも、どんな困難にもくじけず、生徒会長としての役割を全うしたいです。そして、今度は私が周りの人の力になれるような存在になりたいです。